

故障したモノコックバスのその後

本年6月末にエンジンが故障し運行が停止しているモノコックバスについて、その後の経過をお知らせします。

たくさんのバス愛好家の方々から、道内外の色々な情報をいただきました。感謝申し上げます。また、取引のある整備工場の伝手から、修理に関して各方面に打診いただきました。大手自動車メーカーにも、修理に関しての見解を伺いました。

- ・まず、大手自動車メーカーから、いかに古い車でも「直せない車はない」とのことでの「修理は可能」ということがわかりました。
- ・道内に点在しているこの年代、タイプの廃車から使えるエンジンをみつけることは、かなりの時間、労力と費用がかかります。取り外して運んでもエンジンが使える確証もありません。自社ではできないので、すべて外注となります。
- ・今のエンジンを直すことができないか、取引先の修理業者と相談しました。

「旧型エンジンの本体や部品も国内にないので、今のエンジンを開けて故障個所をみつけ、新たに部品を作ることになる。部品を作るのに型枠をつくるなど、とんでもない額がかかる」とのことです。また、「作った部品が合わない場合、再度型枠から作り直す」とことで、ロスも考える必要があるそうです。明確な金額の提示ではありませんが、「千万円単位の費用が掛ることもある」との説明です。

- ・とりあえず、修理に関する見積額をある程度把握するため、取引先の修理工場に、エンジンを開けて故障個所を特定して欲しい旨依頼しましたが、しばらくしてから、「工場も人員不足で対応できない」との回答でした。この段階で止まっております。「諦める」という方向に向かっていると感じております。
- ・千万円単位の資金捻出はクラウドファンディングを活用しても無理だと思います。また、士別軌道もそんなお金の捻出は無理です。

モノコックバスは現在、車庫にて「静態保存」の状況です。これからることは、まだ決めておりません。この年代のバスは、一度登録を抹消すると、再度車検が取れなくなる場合があるので、色々悩んでおります。引き続き、地元以外で対応出来る道内の業者を探してみようと思っております

以上、経過をご報告申し上げます。皆さまには、ご心配をおかけしております。

2025年12月 士別軌道 社長 井口 裕史